

2022 年度 行動計画案について

御意見

- **アクション1 環境と安全に配慮した農業の推進**
  - ・ GAP手法に取り組む農業者の割合を 2025 年度までに 80%としているが、国は 2030 年までにほぼすべての産地で国際水準GAPが実施されるよう導入するという目標を掲げている。県の目標も国の目標を踏まえるべきではないか。※ ①
  
- **アクション4 安全な貝類の出荷**
  - ・ 貝毒はプランクトンが原因なのか。また、最近ではあさりの産地偽装が問題となっているが、安全な貝の出荷という観点からどうか。※ ②
  
- **アクション16 食品表示の調査・監視**
  - ・ アレルギーがあるので必ず裏を見てからの購入になる。よろしくをお願いします。
  
- **アクション18 学校における食の指導の充実**
  - ・ 学校給食において地域の産物を活用する割合 45%の目標は事業内容ともに前年度と同水準だが、教育委員会との連携協定もあり、前年度を上回る目標を設定いただき、積極的な推進を行っていただきたい。
  - ・ 学校給食において地域の産物を活用する割合 45%の目標は低いのではないかと。愛知県は農産物出荷額も全国8位、食料品の製造も非常に盛んであり、目標をもっと高くし、工夫いただきたい。※ ③
  
- **アクション19 消費者に対する食の安全に関する知識普及**
  - ・ 消費者に対する食の安全に関する知識の普及の講習会に参加したいが、いつどこで開催されているか。※ ④

御感想	<ul style="list-style-type: none"><li>● 「食の安全・安心推進アクションプラン」の幅広い取り組みを改めて知ることができた。すべての取り組みが必要で大切なものだと痛感した。</li><li>● この2年間、新型コロナウイルスの影響で、食品メーカーだけではなく原料生産、流通、販売、消費者までマスクや手洗い、消毒などを行い食の安全・安心は過去にないほどに向上した。新型コロナウイルスの影響を受け、計画通り進まなかった部分も多々あったが、食品衛生は急速に進歩し、徹底され食中毒件数も大きく減少した。</li><li>● 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、目標に達しなかったものもあったようだが、今後もなかなか以前のように戻らない状況を推察いただき、前向きな検討を期待している。</li></ul>
-----	--

※ ①から④について、担当課より回答がありました。次ページをご覧ください。

この度は、貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。

各課へ周知の上、皆様からの御意見を参考に、目標値や取組事業の見直しなどの検討を引き続き行い、本県の食の安全・安心確保により一層努めて参りたいと思っております。

今後共、本県の食品安全行政の推進に御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 【質問・回答】

### ① アクション1 環境と安全に配慮した農業の推進

	2022 年度計画	2021 年度計画	修正等の理由	担当課
目標	GAP手法に取り組む農業者の割合 2025年度までに80%	GAP手法に取り組む農業者の割合 2025年度までに80%		農業経営課
事業の内容	農業者等に普及活動を通じてGAP手法を指導・推進	農業者等に普及活動を通じてGAP手法を指導・推進		

## 【質問事項】

GAP手法に取り組む農業者の割合を2025年度までに80%としているが、国は2030年までにほぼすべての産地で国際水準GAPが実施されるよう導入するという目標を掲げている。県の目標も国の目標を踏まえるべきではないか。

## 【回答】

2030年度までにほぼ全ての産地での実施に向けて、2025年度の目標を80%としている。

【質問・回答】

② アクション4 安全な貝類の出荷

	2022 年度計画	2021 年度計画	修正等の理由	担当課
目標	愛知県産貝類の貝毒を原因とする健康被害事例  0件	愛知県産貝類の貝毒を原因とする健康被害事例  0件		
事業の内容	貝毒原因プランクトン調査 調査期間：4～7月、11～3月 調査地点：1回当たり14地 調査回数：年間18回	貝毒原因プランクトン調査 調査期間：4～7月、11～3月 調査地点：1回当たり14地 調査回数：年間18回		水産課
	貝毒検査 調査期間：4～5月、3月 調査地点：1回当たり6地点 調査回数：麻痺性5回・下痢性2回	貝毒検査 調査期間：4～5月、3月 調査地点：1回当たり6地点 調査回数：麻痺性5回・下痢性2回		

【質問事項】

貝毒はプランクトンが原因なのか。

最近ではあさりの産地偽装が問題となっているが、安全な貝の出荷という観点からどうか。

【回答】

貝毒の原因となるプランクトンは、麻痺性では *Alexandrium* 属、下痢性では *Dinophysis* 属が知られている。県では定期的に貝毒原因プランクトンの動向調査や貝毒検査を行っており、安全な貝が出荷できるよう努めている。

## 【質問・回答】

### ③ アクション18 学校における食の指導の充実

	2022 年度計画	2021 年度計画	修正等の理由	担当課
目標	学校給食において地域の産物を活用する割合 45.0%	学校給食において地域の産物を活用する割合 45.0%		保健体育課

## 【質問事項】

学校給食において地域の産物を活用する割合が 45.0%という目標は低いのではないか。教育委員会との連携協定や家庭での地産地消を推進する働きかけを行っており、目標をもっと高く設定し工夫していただきたい。

## 【回答】

地場産品を学校給食に使用するには、給食の調理に適した規格のものを、安価な価格で、一定数量確保する必要がある。保護者から徴収する学校給食費の予算制約がある中、食材によっては、すぐに地場産品の活用を拡大することが難しい現状がある。過去3年間の実績値は、39.3%（令和元年度）、40.4%（令和2年度）、38.2%（令和3年度）であり、こうした現状を鑑みると現在の目標値は適正なものと考えている。今後は、市町村教育委員会やJAなど関係機関と連携しながら、目標値実現に向け、活動を充実させていきたい。

**【質問・回答】**

④ アクション19 消費者に対する食の安全に関する知識普及

	2022年度計画	2021年度計画	修正等の理由	担当課
目標	消費生活相談員に対する食品の安全に関する知識・情報の提供 90%以上	消費生活相談員に対する食品の安全に関する知識・情報の提供 90%以上		生活衛生課

**【質問事項】**

消費者に対する食の安全に関する知識の普及の講習会に参加したいが、いつどこで開催されているか。

**【回答】**

ホームページ等で情報を掲載している他、お申し込みいただければ県政お届け講座を出張で開催することも可能である。